

## 第1回上野地区まちづくりビジョン策定委員会資料

---

### 参考資料2：上野公園に関する計画

◆上野公園グランドデザイン（平成20（2008）年、東京都建設局）◆

## 上野公園グランドデザイン検討会報告書（概要）

### ■上野公園グランドデザインのねらい

**目的：** 上野公園グランドデザインは、上野公園の将来像を明確にするとともに、将来像を実現するための方向性と基本施策等を示すことを目的とする。  
**検討のねらい：** 長期的な視点に立って上野公園の将来像を示すとともに、概ね10年後を想定した具体的取組の方向性を描き出す。

### ■上野公園の将来像

## 『日本の顔となる「文化の森」の創造』 ～世界に向けて日本の文化・芸術を発信する拠点づくり～

○日本の顔としてふさわしい文化・芸術があらわれている

○美しいみどりと水の景観が形成されている

○国内外の多くの人々が集い、にぎわっている

### ■「文化の森」の創造に向けた論点

#### 世界に向けた『文化』の発信強化

- ① ミュージアムコンソーシアム（共済事象体）の設立
- ② 魅力のある多様な文化イベントの招致・開催
- ③ 文化施設の充実と展示等活動の強化
- ④ 文化施設と公園の一体感の創出
- ⑤ 歴史資源の保存と活用
- ⑥ 情報発信機能の強化

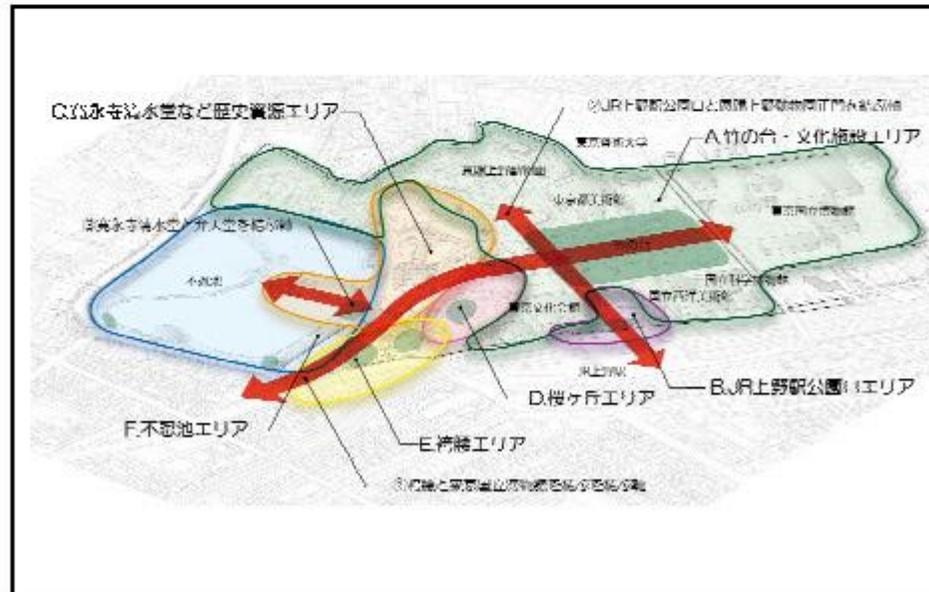
#### 魅力あるみどりと水の空間創出

- ① 「文化の森」の中核となる広場空間の創出
- ② 四季折々の表情が楽しめる、明るく魅力ある林の再生
- ③ サクラの再生と花見空間の創出
- ④ 下町情緒が感じられる親水空間の創出
- ⑤ 公園内の景観の向上と公園と調和した周辺景観の形成
- ⑥ 歴史性を活かした魅力ある景観の再生と創出

#### 快適な利用の推進

- ① 公園の顔となるエントランスづくりとまちとのつながりの強化
- ② 回遊性の向上
- ③ 安全性の向上
- ④ 飲食施設の充実
- ⑤ ユニバーサルデザインの推進

### ■「文化の森」の創造に向けた上野公園の整備イメージ



#### 整備イメージ

- A 竹の台・文化施設エリア**
  - ・ 竹の台広場を「文化の森」の中核となる大広場として整備
  - ・ 憩いやすらげる大木中心の明るい林の創出
  - ・ 都美術館、動物園正門周辺の整備
- B JR上野駅公園口エリア**
  - ・ 来訪者の安全で円滑な歩行者動線の確保
  - ・ メインエントランスに相応しい風格ある広場の整備
- C 寛永寺清水堂など歴史資源エリア**
  - ・ 寛永寺清水堂から不忍池への眺望景観の再現
- D 桜ヶ丘エリア**
  - ・ 多種のサクラの植栽などによる桜の名所の復活
- E 清見エリア**
  - ・ 歴史が感じられるエントランス広場の整備
- F 不忍池エリア**
  - ・ 下町風情を体感できるイベント広場の整備
  - ・ 鐘見を楽しめる親水性の高い池畔の整備
  - ・ ハスの生育環境の改善や不忍池の水質の改善



竹の台広場の整備イメージ（例）



不忍池畔の広場と清水堂からの眺望景観のイメージ（例）

### ■施策の実現に向けて

- ① 役割分担の明確化と関係機関の連携強化
- ② ソフトとハードの調和を図った取組
- ③ 実現に向けた段階的な取組

## ◆上野公園ランドデザイン（平成20（2008）年、東京都建設局）◆

### ○公園整備に係る課題

#### ① 豊富な歴史資源

上野の山と呼ばれる台地は、江戸寛永年間に寛永寺の境内地となり、大伽藍が建設された。その後元禄期以降に、桜ヶ岡が花見の場所として公開されると、桜の名所として賑わいを見せるようになった。また、不忍池は江戸随一の蓮の名所として賑わい、池畔には茶屋等が建ち並び、上野の山とともに江戸有数の行楽地となった。

上野公園及び周辺地域には、旧寛永寺五重塔や寛永寺清水堂等の重要文化財に指定された建造物がある。最近では、国立科学博物館日本館（旧東京科学博物館本館）が、平成20年6月に、重要文化財に指定された。また、国立西洋美術館本館は、「ル・コルビュジエの建築と都市計画」の構成遺産のひとつとして、フランス政府等各国共同で世界遺産登録手続きが進められている。春には花見の名所として約200万人の花見客が訪れるほか、牡丹展・さつき展・骨董市・うえの夏まつりが開催される等、下町独自の文化を活かした様々な行事や催事が催されている。

しかし、下記のような課題も指摘されており、来訪者が歴史や文化を感じにくくなっている。

#### <主な課題>

- 1) 歴史的資源や、かつて見られた歴史的景観が損なわれ、来訪者が歴史や文化を感じにくくなっている。
- 2) 歴史的建造物の保存管理が行き届いていない。
- 3) 下町文化を紹介する魅力ある催し等、ソフト面での施策が不十分である。
- 4) 来訪者への歴史や文化の案内や周知が不十分である。

◇参考：江戸時代における上野の山とその周辺を示した絵図



#### ② 多様な文化施設の集積

明治時代になり、上野公園が開設されると、上野公園一帯は博覧会をはじめとする日本の国家的な文化行事の開催の場となった。その流れを受け継ぐように、博物館（東京国立博物館、国立科学博物館）、美術館（国立西洋美術館、東京都美術館等）、動物園（恩賜上野動物園）等の多様な文化施設が設置され、我が国を代表する文化施設が集積する地区になっている。

これらの文化施設では、質の高い芸術文化に親しむことができる展示・催事等が企画・実施されており、上野公園内の文化施設における年間利用者総数は約1200万人となっている。

しかし、下記のような課題も指摘されており、個々の施設の展示や催事は魅力的であるが、地域としての総合的な取組がないため、文化施設の集積効果が活かされていない。

#### <主な課題>

- 1) 竹の台の噴水池が歩行者の動線を分断しているほか、鬱蒼とした樹林等により文化施設の存在が分かりにくい。
- 2) 各文化施設が柵で囲われ公園との一体感を阻害し、開放的ではない。
- 3) 展示や催しに関する情報が共有されておらず、上野公園全体としての情報発信がなされていない。

#### ③ 豊かなみどりと水辺空間

江戸時代から、上野の山は花見の名所として親しまれた。不忍池は蓮見・月見・雪見等の景勝地として親しまれ、不忍池周辺には茶屋が建つ等、江戸有数の行楽地であった。

上野公園は、明治に入ると我が国で最初の公園として開設され、現在においても、都心における水とみどりのオアシスとして、蓮や桜の花見の他、散策や野鳥観察等自然とのふれあいの場となっている。また、台地上の園地には桜が並木状に広がり、台地と不忍池の間の崖線には、かつて海辺だった時代の名残と考えられるタブノキが数少ないものの保全されている。時代の経過とともに上野公園の樹林は成長し、都心における貴重で豊かな森を形成してきた。

しかし、下記のような課題も指摘されており、来訪者が豊かなみどりと水辺空間に親しむことができなくなっている。

#### <主な課題>

- 1) 桜の老木化や蓮の密集により名所としての魅力が低下している。
- 2) 樹木が密生し、暗く鬱蒼とした樹林となっている。
- 3) 来訪者が散策をしたり、くつろぎ憩える場所が少ない。
- 4) 不忍池周辺の建築物の高層化や高密度が進み、かつて不忍池が持っていた広がりのある景観の魅力が稀薄になっている。

## ◆上野公園グランドデザイン（平成20（2008）年、東京都建設局）◆

### ○公園整備に係る課題

#### ④ 個性豊かな特色あるまち

上野公園の周辺には寛永寺、湯島天神等の歴史ある社寺をはじめ、国際子ども図書館、東京藝術大学、旧岩崎邸庭園等、我が国を代表する文化施設が立地する。また、上野公園南側には多くの来訪者を集め、活気と賑わいをみせる上野の商店街など大規模商業地が広がり、北側には下町情緒を今に伝える街並みが残されている谷中・根津・千駄木地域がある。このように、多様な街並みや文化を来訪者が享受し楽しめる場所が上野公園の周辺地域には数多くある。

しかし、下記のような課題も指摘されており、来訪者が目的地にスムーズに移動ができない等、公園と周辺のまちとを気軽に行き来できなくなっている。

#### <主な課題>

- 1) 公園や周辺のまちに、来訪者を誘導する案内やサインが不足している。
- 2) 地形による高低差や長い移動距離が来訪者の負担になっている。
- 3) 上野の山と不忍池の連続性に欠ける。
- 4) 不忍池を一周することができない。

◇参考：上野公園の周辺地域の様子



(左上) 袴腰周辺  
(左下) 上野の商店街  
(右) 谷中・根津のまち

#### ⑤ 多数の来訪者

上野公園とその周辺地域には、多くの観光客が訪れており、上野公園内の文化施設だけでも、平成18年度には年間利用者総数は約1200万人を超えている。また、国内では都内のみならず全国から人々が訪れ、海外からはアジアをはじめとした各国から来訪するなど、非常に広範囲にわたる地域や国々から訪れるとともに、利用者の年齢層の幅も非常に広がっている。

しかし、下記のような課題も指摘されており、来訪者が安全・安心して、快適に公園を利用することができにくくなっている。

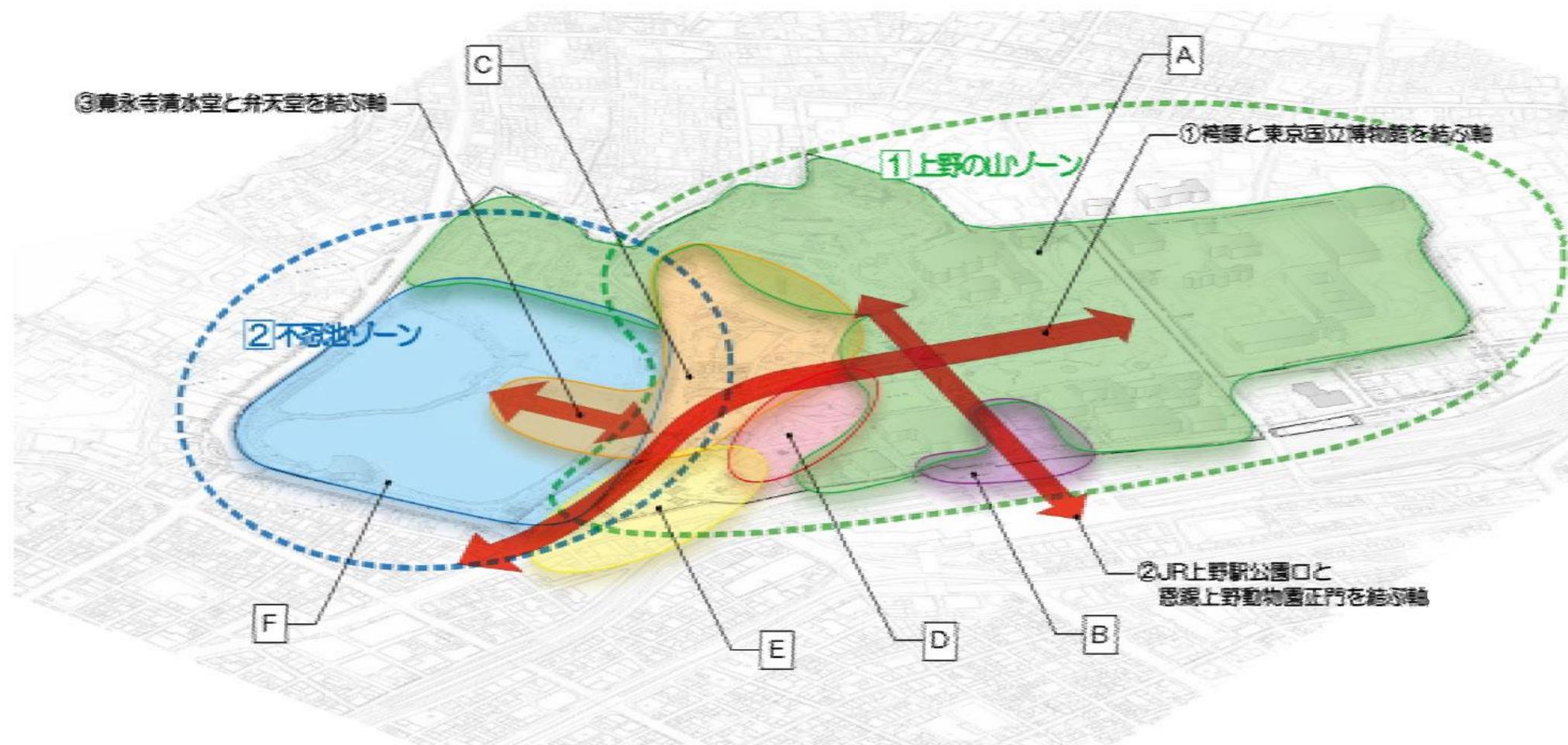
#### <主な課題>

- 1) JR上野駅公園口と公園が分断され、来訪者は安全で快適に公園にアプローチできない。
- 2) 鬱蒼とした樹林により、夜間、安心して利用できない。
- 3) 車いす対応をはじめとするユニバーサルデザインの導入が立ち遅れている。
- 4) 文化施設や公園施設等に関する情報提供が不十分である。
- 5) 来訪者が、みどりの中で、ゆったりと落ち着いて休憩や食事等を楽しめない。
- 6) ホームレスや違法屋台等により快適な公園利用が損なわれている。

上野公園グランドデザイン(平成20(2008)年、東京都建設局)より抜粋

・上記は今後の検討において変更となる可能性があります。

◆上野公園グランドデザイン（平成20（2008）年、東京都建設局）◆



■ゾーン

- ① 上野の山ゾーン
- ② 不忍池ゾーン

■エリア

- A 竹の台・文化施設エリア
- B JR 上野駅公園口周辺エリア
- C 歴史資源エリア
- D 桜ヶ丘エリア
- E 袴腰エリア
- F 不忍池エリア

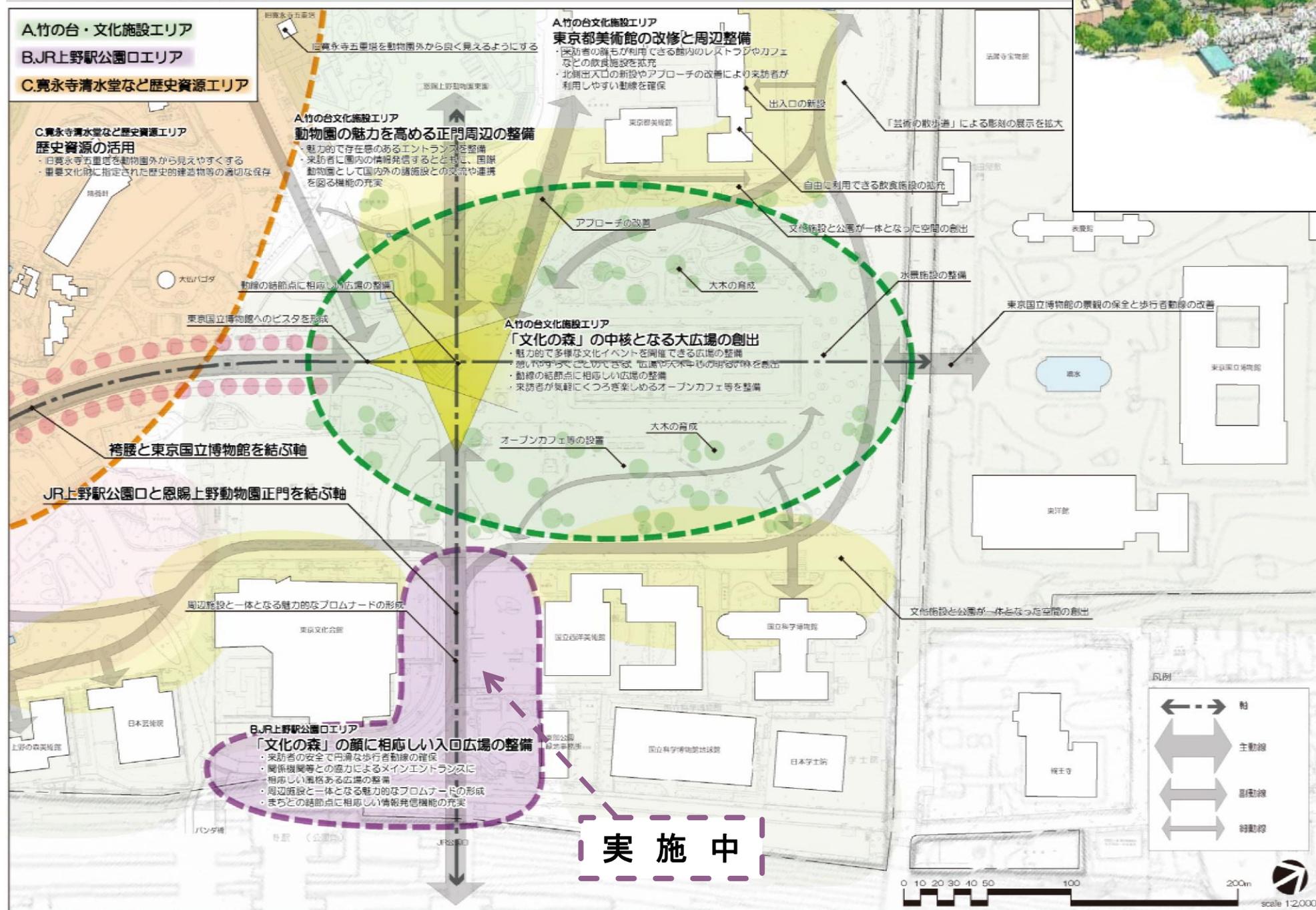
■主軸

- ① 袴腰と東京国立博物館を結ぶ軸
- ② JR 上野駅公園口と恩賜上野動物園正門を結ぶ軸
- ③ 寛永寺清水堂と弁天堂を結ぶ軸

図：「ゾーン」と「エリア」及び「主軸」

◆上野公園グランドデザイン（平成20（2008）年、東京都建設局）◆

2. 上野公園のエリア別整備イメージ



A.竹の台・文化施設エリア  
「文化の森」の中核となる大広場を創出 イメージパース（例）

